

連載10 そして音楽の旅は続く

忘れられない1曲は、 Cの棚にあった

7月号! 私は7月7日の七夕生まれなので、この季節はニコニコしちゃいます。でも、この時期の日本は北海道以外はどこでも梅雨～。天の川を見るのが難しくて残念です。ハワイで見たときは「やっと逢えたね!」って泣きそうでした。「星乃けい」はその名の通り、子供のころから星好きなんです。

18歳で行った合歓の郷でもよく星を見上げました。それは、いくらがんばっても曲が書けなかったからです。望んでいた環境をやっと手に入れたのに、何も生まれてこない。英虞湾(あごわん)の夕陽が星を連れてくるまで、岩場にずっと座ってたなあ。九州ではいろんな人に助けて貰ったけど、これからは自分一人で立ち上がらなきゃいけない。今さらながら甘えた自分が情けなくて、シンガーソングライターとしては暗黒の時代でした。もんもんとした日々だったけど、合歓は救われる場所でもありました。ここにはレコーディングや合宿でいろんなプロアーティストが集まっていたので、アーティスト同志の知り合いがたくさんでき、曲を創ることや

歌を唄うこと、いろんな話が弾みました。中でも特に歌の上手い、プロのボーカリストをそばで見ている私には考えました。歌を唄うということだけでも、本当にたくさんのトレーニングが必要なのに、私は作詞・作曲・唄の三つすべてで満点を目指している…なんておこがましいんでしょ!と思いました。そしてその頃からは、作詞と唄に重きを置こうと考えました。もう星を見上げては曲が書けないと嘆くことはなくなりました。三つはできなくても、二つならがんばれるもんね!って感じです。暗黒時代であっても、得るものっていつでもどこにでもあるんだね～。

さて合歓での一番の楽しみは資料室のレコードでした。その数は膨大で、アルファベットのAから片っ端に聴きまくっても、合歓を出るまでにCまでしか辿り着けませんでした。そんなある日、忘れられない1曲に出会いました。Cの棚にあった、Carmen M' crae(カーメン・マクレエ)のThe Man I Loveという歌です。Fender Rhodes(フェンダーローズピアノ)の音色がポロ～ン、ギターがポロ～ン、まるでお話しでもしているみたいな唄い方から始まって、オーケストラも入ってきた～!素敵なおコード!わー、これ好き!これカッコイイ!…ワクワク

ジャズボーカリスト 星乃けい

official website
<https://www.hoshinokei.com>

したその曲、その歌手はジャズの名曲、偉大なジャズボーカリストでしたが、ジャンルを超えて聴いていたので、それがジャズとはまったく気が付きませんでした。でも、その衝撃はいつまでも心に刻まれました。それからなんと20年経ってからジャズを知り、Carmenの唄に再び出会ったときは「Carmen! 貴方はここに居たんですね!」ってほんとうに嬉しかった～。音楽をジャンルという壁で狭くしていたら巡り合うことも無かったでしょう。片っ端から聴いて良かったなあ。

さて、そろそろ上京する時が来たようです。合歓に来たとき、肩に力が一杯入っていた剣道着は捨てて、私なりに流れて行こうかな。



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をリリース。ジャズファン、ジャズメン、オーデヲファンから高く評価支持される